



いろいろなニーズに応えられる医療食品の提供を

理事 志田 健太郎



先日満100歳の御婦人の膀胱結石の手術をした、最高年齢記録である。経尿道的手術であるからそれほどリスクはない、成功！

元気な御婦人で頭もしっかりとしている。歩くことは少々難しいが生活の質は高そうである。

ところが驚いたのはその方の食生活である、肉しか食べない。シャブシャブが大好きとのこと、野菜などの副食は一切食べないとのこと、まるで前世紀のイヌイットのような食生活ではないか。

ここで困ったのが当院の管理栄養士達である、彼女達の仕事は言うまでもなく、いかに体によろしく、健康を保つために必要なバランスのとれた完璧な食事を作ることである。極めて御自分達の仕事にプライドと自信をお持ちの方々である。さてこの肉食系の御婦人に腕によりをかけて作り上げた食事であったが、見事に彼女達の自信とプライドは崩れ去ったのである。

肉しか食べない！ 魚も野菜も食べないのである。それでも100歳までどうにか健康、とは何事であろうか？ 一体他の栄養はどこから摂取しているのだろうか。少々興味があったので血液検査を丹念に検索してみたが、特に異常は見当たらない。原因が分からない、普段は病気の原因を探るのだが、今回は健康の原因を探っているのである。

一般的に肉食とは高脂肪、高カロリー食であって、それによって肥満、高脂血症、糖尿病は必然と考えられるのだが、この御婦人には見受けられない、何でか？ これは少し追究する価値のある問題として調べることにした。肉しか食べないと言いながら隠れて野菜を食べているのか？ それはない。毎日これ一本という野菜ジュースを飲んでいるのか？ 飲んだ形跡がない。ライオンとDNAが一緒か？ これは調べていない。

不思議の連鎖である、その中で一つ判明したことがある、それは玄米である、この御婦人は若い頃から主

食が玄米なのである。調べてみると玄米の中にはビタミンをはじめ多くの栄養が含まれている、中でもγ-オリザノールが多く含まれており、これが膵臓のβ細胞にいい働きをすることが知られている。この御婦人は玄米を食べることによって栄養の偏りを相殺して来たのだろうか？ これしかない。

しかしこの御婦人の例は特殊な事例で、玄米さえ食べればよいというわけではない。おおよその人間は肉も魚も野菜も全ての食べ物をバランスよく食べなければならない、そのバランスを崩すと疾病罹患率は上る。その昔、軍隊でビタミンB₁の欠乏で脚気が多く発生したと聞いている、栄養のバランスとは我々には重要な問題である、しかし普段、よほどの健康オタク以外は毎日の食事の栄養バランスなど考えていないようである。私を含めて。

もし何かの不都合で入院することがあれば、現代の病院では完璧な健康食を食べることができる。管理栄養士達は日々栄養バランスのとれた病状に合った素晴らしい食事を提供することに奮闘している。しかも昨今の高齢化社会においては入院される方も高齢化が進み、高齢化仕様の食事も考えなければならない。高齢になると歯も目も悪くなり、唾液の分泌が低下し、味覚も鈍化し、その上嚥下障害なども加わってくる。そのような高齢の方達に「お年寄に喜ばれる食事」を提供するよう創意工夫を続けて行かなければならない。入院療養生活の中では食事は重要なパートであり、これからますます高齢化社会を迎える現在、現場から求められるニーズは多様を極めるであろうと思われる。それらのニーズに我々はより一層質の高いサービスを提供していかなければならない。

